

走れ 41社の 想いを のせて

新居浜市 別子銅山 マイントピア別子の観光列車

昔、元禄の時代、伊予の別子に銅山が開いた。別子銅山は一万を超す多くの人々で賑わった。海拔1,000mの山中に日本初の山岳鉱山鉄道が明治近代化の汽笛を響かせた。別子銅山は新居浜の人・まち・技術を育て、新居浜を小さな農漁村から鉱山集落へ、そして工業都市へと成長させた。約300年に渡り長い歴史を紡いできた別子銅山の終焉の地は「マイントピア別子」に生まれ変わった。時空を越え、令和へと脈々と受け継がれた新居浜ものづくり産業のDNAは、新居浜機械産業協同組合41社によって、別子1号機関車に結実した。先人と現代人の技術を融合し、銅山の理想郷を新居浜産業人の想いを乗せ未来へ走れ!別子1号!!

えひめ瀬戸内LINKプロジェクト
愛媛県立新居浜南高等学校 × 愛媛大学井口梓研究室 × 東予歴史文化協議会